
共鳴世界の玉手箱

前奏曲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

共鳴世界の玉手箱

【Nコード】

N2475Z

【作者名】

前奏曲

【あらすじ】

この作品は私、前奏曲の小説『Resonance?W?』の設定資料集や外伝を集めて行く予定です。物語が進んだだけ順次更新していきたいと思っています。

此方を読んでもし興味を持たれた方がいらっしゃったならば、本編の方もどうかよろしくお願い致します。

一応本編と此方、どちらからでも構いませんが、此方からの場合はネタバレも含まれてしまう可能性があるのでご了承ください。

登場人物（前書き）

登場人物の中には、若干のネタバレが含まれるものや本編に書く予定のないものが記述されています。ご了承ください。

登場人物

登場人物

静原駆「しずはらかける」：

本作の主人公。私立鷹翼おとうよく学園二年生。誕生日が六月のため未だ十六歳。黒紅色の髪を持つがそれ以外はいたって普通の日本男児。常に不機嫌そうに見える無表情、睨み付けているように見える鋭い目が特徴。ルックス自体は悪くないが普段の表情の所為で色々台無し。ドッペルゲンガーを常日頃から見ているが、本人はそれを既に？異常？と感じずに日常の一風景として処理してしまっている時がある。

本作開始時より三年前、両親と大喧嘩をし、冷戦状態となった為現在は連絡を絶って一人暮らしをしている。また、喧嘩の原因から人間不信に陥っており、他人を遠ざけ、また遠ざけられている。しかしながら人間不信と言う部分には駆の思い込みの部分もあり、潜在意識では他人を信じたいと願いつていながら裏切られる可能性に怯えているだけ。その点はドッペルゲンガー？静原駆？との遣り取りで半分ほど自覚させられている。

周りとの協調性は上記の理由もあり皆無、伶俐で反感を買う言動や態度でクラスメイトのみならず教師達からも嫌われている。

ある日夢の中で出逢い、現実でも再会した御堂奏には不思議な安心感と信頼を抱いている。

レゾナンス・ワールド
共鳴世界に招かれた事で、人間不信という自身の歪みや奥底に秘めた願いを見つめ直していく事になる。

共鳴世界で使用する能力は『拒絶できない拒絶』。

？静原駆？「？しずはらかける？」：

駆が常日頃から見ているドッペルゲンガー。常に駆を嘲笑い、翻

弄する。他人には見えていない筈だが、奏はその存在を察知出来た事があるなど別の存在であることを匂わせる時がある。

駆本人とは違い実に感情豊かに話すが、出てくる言葉はポエマーめいていたり天邪鬼だったりと色々と面倒臭い。『不思議の国のアリス』や『鏡の国のアリス』をよく例えに出す。

性格が真逆のように見えるが、実は駆の隠れている部分が表出しているだけ。

駆との関係は「俺がお前でお前が俺で。どちらにせよお互いがお互いにとってのジャバウォックだ」

御堂奏「みどころかなで」:

ヒロイン。私立鷹翼学園に転校してきた少女。十六歳。

白藍色の髪に瑠璃色の瞳という日本人離れした容姿ではあるがれつきとした純日本人である。端正な顔は可愛いよりも綺麗と呼べるそれであり、モデルも羨むようなスタイルの良さを誇る。胸は大きい。

どこか神聖な雰囲気纏い、至極丁寧な言葉遣いをする。

幼い頃に共鳴世界に招かれ、以来いつ終わるとも知れぬ試練への挑戦を続けてきていた。駆との出会いでその険しい道に光を灯していく事になる。

駆が夢で彼女を見たように、実は彼女も夢で駆を見ている。不思議な違和感を感じるため駆の事を気にかけているが、それ以外にも気になっている部分がある。

転校以前は女子校に通っていたが、その容姿や丁寧な言動、更に成績も優秀であった事から「完璧」と評され、一目置かれていると言っよりも半ば隔離された状態であり居場所を感じられない辛さから転校を決意した。

両親は多忙で顔を合わせる暇もなく、会ったとしても余り仲のいい様子ではないらしい。妹が一人いるがこちらでもまた疎遠となっており、上記の居場所を感じられない事に拍車をかけている。

駆との関係は「共鳴世界で出逢った何故か気になる人。共鳴世界で共に進むパートナーになれたら」。共鳴世界で使用する能力は『届かぬ声を届ける』。

藤沢美紀「藤沢美紀」

ヒロイン。駆の幼馴染にしてクラスメイト。十六歳。ポニーテールが特徴。テニス部に所属している。

十人が十人可愛いと言う程の容姿を持つが胸は平均的。しかし明るい性格で男女分け隔てなく接する事から学年ひいては学園のアイドルであり、非公式ながらファンクラブの存在も噂される。

本編開始時三年前に駆が親と喧嘩をし、他人を遠ざけ、また遠ざけられるようになってからも唯一見捨てずに駆と交流を保とうとしていた。その当時喧嘩を仲裁したのは美紀だったが、互いの意見が最後まで平行線で絶交、冷戦状態になってしまっている事を気にしている。

駆に好意を持っており、想い人に心を閉ざされ冷たい対応をされながらも一途に想い続けている健気で強い人。元気娘のようで実は一番（駆と交流を持つ女性の中で）女の子らしい女の子である。

駆に対し失言が多いように見えるがそれは「人間不信となる前」の駆を知っているからであり、かつては冗談等として通じていた筈の言葉である。

一般人。駆にとって日常の象徴でもある。駆との関係は「幼馴染にして（伝わってないけど）好きな人。あんまり心配させないで」

海猫薫「うみねこかおる」：

駆の住むアパートの部屋の隣人。二十代前後に見えるが、実年齢は誰にも分からない。職業不明でいつの間にか出かけていたと思えば帰ってきている。

長身瘦躯で常にニヤニヤと嫌味な笑みを浮かべており、赤く染めた髪で目を隠している。隠れた目の眼光は意外にも鋭い。

性格に関しては滅茶苦茶で、人格者と人格破綻者が同居しているような人間（詳細は本編に記述）。その証拠かどうかは知らないが、話す時の語尾は常に乱暴になる。

駆に朝食と夕食をたかり昼食は抜く、掃除洗濯も週の終わりにすべて駆に任せるなどかなりのダメ人間で部屋には俗にいうエロゲーが散乱しており、ジャンルは様々揃えてあるがオタクではないらしい。駆にこの手の知識があるのは確実にこの男の所為である。駆の部屋で昼間からイヤホンを付けずにプレイするのが趣味で傍迷惑にも何度も行っていて、実際に駆は風評被害に近所一帯の誤解を解いて回ったという笑えない話がある。

色々と問題のあり過ぎる人物だが、駆は苦手と思っけていても嫌ってはいなく感情を素直に出せる相手でもあるため気に入っている部分もある。

一般人のほずだが、共鳴世界について何らかの知識があるような様子を見せ、駆にからかい交じりの助言を残す事が極稀にある。

駆との関係は「からかいがいのある隣人。（自称）友人さ」

棗暁彦「なつめあきひこ」：

私立鷹翼学園二年生で駆、奏、美紀のクラスメイト。早生まれの為十七歳。茶髪は地毛。少なくとも駆よりは明らかにイケメンである。しかし女好きであることが知れ渡っているが女性に対する態度は真摯な為、評価自体は悪くない。精々が「残念なイケメン（笑）」とからかわれるくらいである。

割とお調子者だが、クラスのムードメーカーとしての役割を任されている状態である為うざがられる心配は無い。

駆との初対面は食堂。美紀が連れてきた彼に当初は警戒心を抱いていたが、直後の転校生トークでの駆の反応を気に入ったらしく、親友を名乗るようになる。駆からは嫌がられているが、受け入れられつつある。

一般人。駆との関係は「（自称）親友！ 異論は認めないが無視

するな、頼むから」

古河朱莉「ふるかわあかり」：

私立鷹翼学園二年生で駆達のクラスメイト。十六歳。テニス部所属。小柄でやや気が弱く大人しい為小動物のようだが芯の強い部分もあつたり、無かつたり。テニスの試合では人が変わったように豪快なプレイをするらしい。

駆との初対面は食堂。当初は警戒していたが、美紀との遣り取りを見た事で警戒心は薄れている。とはいえ、やはり駆は伶俐な言動が多すぎる為、苦手意識や警戒は完全には払拭できず、完全に払拭できるかは双方の努力次第だが、現在実現性は皆無に等しい。

一般人。駆との関係は「友達……」だけど、やっぱりちよつと怖いかな。悪い人じゃないんだらうけど」

登場人物（後書き）

初めまして、前奏曲と申します。此方から入られた方も、本編を
読んでから入って来てくださった方も、お楽しみいただければと思
います。

興味を持っていただけの方がいらっしやる事を期待しつつ、執筆
を進めていきたいと思えます。
それでは！

用語集1（前書き）

多少のネタバレを含む可能性がありますのでご注意ください。

なお、本編が進み次第順次更新する予定です。

用語集1

用語集（共鳴世界）

共鳴世界「きょうめいせかい」：

本編開始時より十年前、無名の心理学者によって発見された未知の世界。現実世界と酷似しているが街並みはビルや家が無秩序に乱立し、側面から生えるように立っていたり空中から釣り下がるようになっていたりするなど酷く歪んでいる。

人間の持つ感情の揺らぎや歪んだ想念が膜を作り現実世界と共鳴する事で『世界の裏側』として存在している中で、現実世界に強い歪みが生じた時にそれを中心として漏れ出している。レポートの著者である心理学者はこれを「世界を侵食し覆う」と表現した。

また、この世界においてはそこにいるだけで人間の闘争本能を刺激されるため、どんな人間でも攻撃的になる。その振り幅の大きさは個人個人で異なるが、攻撃的になることのない例外たる人間は二重人格のように人格をスイッチできる人間か、闘争本能への刺激そのものを拒絶せしめる人間だけである。

歪み共鳴する者「ディストーション・レゾナンス」：

『世界の裏側』である共鳴世界に対し強い同調を示し、呼び出されるまでに至った者の事。大抵呼び出されるまでに至った人間は自身か周りの環境、或いはその両方に強い歪みを抱えおり、心の内に良かれ悪かれ強い願いを秘めている事が多い。

現在こう呼ぶ事の出来る人間は世界でも二十人に満たず世界のどこにいても定かではないが、互いに引き合う運命にある。

しかし、引き合い、出会ったとしても攻撃性の増加でお互いを攻撃しあう事の方が大半で友好的な関係となる事は至極稀である。よしんば攻撃性を無理やり抑え、友好的な関係を作ろうとしても抑圧

された闘争本能に呑みこまれ暴走する可能性があり、そうなった場合その人間は生きている事は出来ないだろう事が予想される。

あくまで現状二十人に満たないと言うだけであって、人間である以上多少の歪みは抱えている為地球上に存在する全ての人間はいつ歪み共鳴する者となる資格自体は持ち合わせているが、実際になる確率は限りなくゼロに近い。それと言うのも大半の人間は多少の歪みを自分で処理でき、処理できない場合は周りの人間が後押しするからである。歪み共鳴する者は上記の理由があるため、処理ができなかった人間である。

人類最初の歪み共鳴する者は上記の無名の心理学者である。

試練「しれん」：

共鳴世界において歪み共鳴する者が向き合うべき命題。挑む歪み共鳴する者達にもいつ始まり、いつ終わるか分からない厄介なもの。試練は個人個人で異なり、歪み共鳴する者の現実での問題に直結している。御堂奏曰く、「共鳴世界は私達を試している」。

力「ちから」：

歪み共鳴する者が共鳴世界において試練に挑む際の武器となり、盾となる能力。能力覚醒は現実世界で起こり、強い不快感を伴い、身体の一部に文様が刻まれる。能力は個人で異なり、一つとして同じ能力はなく、歪み共鳴する者の本質や生き様、そして心に秘める願いをベースに発現する。

上記の紋様は普段は見えないが、共鳴世界で能力を使用した場合に表れ発光する。

発現のプロセスとして干渉、接続、共鳴、発現の順に行われる。

カメレポート「かもめればーと」

共鳴世界を発見した心理学者が書き記しているレポート。レポートNo.0は発見当時に書かれたものであるが、No.1までに十

一年が経過し、歪み共鳴する者となったある一人の少年を観察対象としている。

内容は真面目なものと著者の冗談のギャップが激しく、非常に神経を逆撫でするため閲覧には相応の覚悟が必要である。

レポートとしては特殊な事に、三人称ではなく一人称で書かれている事が特徴である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2475z/>

共鳴世界の玉手箱

2011年12月11日10時53分発行